

御万人（うまんちゅ）ぴーすふるアクション（沖縄平和啓発プロモーション事業）

ぴーすふるシンポジウム イン東京

全文掲載 3（第 1 部続き 招待講演）

主催：沖縄県

（所管：沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課）

開催日時：令和 2 年 1 月 15 日（水）14 時～17 時

開催場所：東京国際フォーラム(D7 ホール)

※本文書の無断転載は固く禁じます。

【司会】

さあ、平和とは、人の命とは、生きるとは。

人として、どのような道を選ぶことができるでしょうか。そのようなことを考えたときに、沖縄から見えるもの、沖縄から考えることができることがあるのだと思います。

そのなかのひとつ、戦争については、（人から）その全てが奪われていくものであることは、間違いがないことだと思います。

沖縄から「平和を求めるころ」を発信するために、この「御万人ぴーすふるアクション」という活動を展開しております。

（2020 年は）戦後 75 年を迎えます。この時代に、これから先を考えるとときに、改めて沖縄戦とはなんだったのか、ここで考えてみたいと思います。

第 1 部、今度は招待講演です。

沖縄県平和祈念資料館友の会、事務局長の仲村真さんをお願いいたします。よろしく願いいたします。

（拍手、登壇）

【第1部 招待講演】

沖縄県平和祈念資料館友の会 事務局長 仲村真氏

はいさい、ちゅうやうがなびら。ただいまご紹介に預かりました、沖縄県平和祈念資料館友の会の仲村と申します。

沖縄生まれの沖縄育ちで、64歳になりました。

75年前、熾烈な戦火が沖縄を襲い、3ヶ月におよぶ鉄の暴風雨は、沖縄の島々の山野を変え、文化遺産のほとんどを破壊し、約20万人の尊い命を奪い去りました。

沖縄戦の実相と、そこから得た教訓を、正しく次の世代に伝えていくことは極めて重要なことでもあります。

そのことを踏まえながら、沖縄県平和祈念資料館友の会が行っている活動を紹介していきたいと思います。

沖縄県平和祈念資料館の主催で平成16年、平成17年、平成18年の3年間、平和祈念資料館ボランティア養成講座が開催されました。目的は、学校・地域における平和学習支援活動の中核となる人材の養成、バランス感覚をもった平和教育を実践できる人材の養成でした。

講座は毎週土曜日、6ヶ月に渡る本格的な講座でした。

沖縄戦、沖縄戦後史、沖縄文化、平和教育など、その道の第一人者より講義を受けることが出来ました。特にいまではもうお話を伺えない南風原陸軍病院の軍医、長田紀春（ながた・きしゅん）さん、映画「月桃の花」のモデルになった安里敏江（あさと・としえ）さん、陸軍病院で毒入りミルクを飲まされた日本兵の岡襄（おか・じょう）さんなど、沖縄戦の体験談もありました。

学徒隊生き残りの、一中鉄血勤皇隊の石川栄喜（いしかわ・えいき）さん、ひめゆり学徒隊の宮良ルリ（みやら・るり）さん、島袋淑子（しまぶくろ・よしこ）さんの体験談など、いずれも貴重な証言を聞きました。

座学だけでなく、ガマや戦争遺跡、米軍基地などへのフィールドワークも行いました。3年間の養成講座で、89名が講座を修了することができました。

ボランティア養成講座修了生が集まって、平成17年に「沖縄県平和祈念資料館友の会」というボランティアの活動グループを立ち上げました。

設立の目的は、沖縄県平和祈念資料館の設立の理念を踏まえ、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次の世代に伝える、としました。

それから平和学習支援、平和講話、平和ガイド、資料館での展示解説などの活動をスタートさせ、今年で15年目になります。

さて、友の会の目的にある、歴史的教訓について述べたいと思います。これは「沖縄戦がなんだったのか」ということにも結びつくかと思います。

この歴史的教訓はまた、沖縄県平和祈念資料館の設立理念である「沖縄のこころ」に通じます。「沖縄のこころ」とは、人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛するところでもあります。

この（沖縄戦の）歴史的教訓を切実に訴えた言葉があります。

こちら（スライド）は平和祈念資料館なかにひとつの部屋を設けて掲げられている、展示結びの言葉です。ちょっと、この文章（スライド）を読んでみたいと思います。

（引用始まり）

沖縄戦の実相にふれるたびに、戦争というものはこれほど残忍で、これほど汚辱にまみれたものはないと思うのです。このなまなましい体験の前では、いかなる人でも、戦争を肯定し美化することはできないはずです。

戦争を起こすのはたしかに人間です。しかし、戦争を許さない努力のできるのも私たち人間ではないでしょうか。

戦後このかた、私たちは、あらゆる戦争を憎み、平和な島を建設せねばと思い続けてきました。これがあまりにも大きすぎた代償を払って得た、ゆずることのできない私たちの信条なのです。（引用終わり）

これは、今から 40 年前、旧平和祈念資料館の運営協議会の方たちが知恵をしばって作った文章です。

それでは、沖縄戦から学んだものというのをちょっと読んでみたいと思います。

先ほどの、展示結びの言葉を少し拾ってみました。

（スライドあり）

いかなる人でも、戦争を肯定し美化することはできない。戦争を起こすのはたしかに人間です。戦争を許さない努力のできるのも、わたしたち人間ではないでしょうか。

私たちは、郷土の沖縄戦の教訓を、この一文にまとめました。

戦争を許さない努力の出来る人になる。このことを次世代に伝えて、平和学習を通して、このような（平和を求めるこころを持つ）人を育てていきたいと活動しております。

ここの「許さない」ということは、ついこの間の、一触即発（の状況）になったアメリカとイラン、幸い戦争にはなりませんでしたが、アメリカの戦争も、イランの戦争も許さないということなのです。

沖縄戦だけではなく、日本の国だけではなく、世界中の戦争を許さない努力の出来る人になるということを伝えるために、私たちは活動を行っています。

現在、友の会では、沖縄戦から学んだ教訓を、学生や一般の方に、（沖縄戦の記憶を）正しく伝える活動を行っています。

学校や修学旅行団の依頼に応える平和講話は、特に戦争体験者を中心に行っています。こちら（写真）にいます上原さん、大城先生。このお二人はですね、沖縄戦のときにお父さんが、防衛隊で亡くなっています。

こちら（写真）にいます安田さん。お父さんが（日本兵として派遣された）フィリピンで亡くなりました。

こちらにいる久保田さん。久保田さんは沖縄戦のときにはゼロ歳で、お母さんにおぶられて、戦場をさまよった経験を持っています。当時ゼロ歳ですので、ほとんど戦争体験は無いんですけども、戦争体験者として語り部をしています。

平和記念公園のガイドや、戦争（戦跡）案内などのフィールドワークは戦後世代を中心に行っています。

こちらの図（スライド）は、2019年の住民基本台帳を基にした、沖縄県の人口ピラミッドです。出生数の減少で、壺のような形をしておりますが、将来的には人口が減少するタイプです。沖縄県もいずれ人口が減少すると、日本全部もまさにこのような状態です。もう人口減少の時代に入っています。

それで、こちらにある緑の線（スライド）にちょっと注目してください。

戦争体験世代と言われる、（2020年で）75歳以上の比率は、全人口の6.4%。もう戦争世代というのは沖縄県だけでも、93039名しかいないわけです。

さらに学徒年齢層である90歳から94歳は14411人。うち男性は3646人しかいません。兵役年齢層と言われる95歳以上については、男性が1042名、女性が多いんですけども、5197名です。

兵役年齢層にいたっては、平和講話のような形で人前に出て話すことは困難になっています。ベッドサイドで（話を）聞いたり、施設で聞いたり、体験談を語れる方はいらっしゃるのですが、人前に出てお話しすることが出来る人は、沖縄県でも数えるくらいしかいないです。

私たち友の会のメンバーも最高年齢は89歳、沖縄戦当時は15歳でしたが、私たち沖縄県平和祈念資料館友の会も、かなり高齢化しています。

わたしがどちらかという若いほうですね、64歳で。

高齢化してくると、ひとつ問題が出てきます。

いまはもう75歳になると、車の運転、運転免許を返上する（方も少なくない）。

ということになると、そういった（平和講和などの）活動をしたくても、もう移動手段がない。ですから、なかなか学校に出向くというような形で、高齢者の方がお話しする機会も少なくなってきた、近くの高齢者の方が移動できる範囲であれば、お話もできるんですけども、住まいから遠い（本島）北部や離島などに行ってお話しすることはなかなか難しい状況になってきています。

話の最後に、昨年ノーベル化学賞を受賞した旭化成名誉フェローの吉野彰（よしのあきら）氏の研究スタイルをご紹介します。と思います。

最先端技術の分野では、研究者の多くは、最新の論文や実験結果を参考にするそうで、それらの研究からスタートする方も多いらしいです。

ですが、吉野さんはそれだけではなく、過去の失敗した材料や実験などもあわせて、もう一度振り返って、あるいは見直して、そういったことで、今回のリチウムイオンバッテリーの新しい開発のきっかけがつかめたそうです。(自分の) 研究の未来(方向性)を予測できた。

この例をわたしたちの(沖縄戦の)教訓を伝え、活かすという活動になぞらえると、歴史は単なる記憶の学問ではないということです。

過去から現代に至る流れを読み取ることで、私たちの未来(現在向いている方向)が見えてきます。そこで、沖縄戦から得た貴重な教訓を伝え、実践することによって、(良い進路を取り)平和な未来が築けるとわたしは思います。

以上、ご静聴ありがとうございました。

【招待講演 全文ここまで】

【司会】

仲村事務局長、有り難うございました。

限られた時間ではございますが、いま、沖縄戦を語り継ぎ、次にどのように未来へつなげていくのか。活動のひとつとして、友の会の活動をご紹介させていただきました。

戦争を許さない努力。

どのようなことが挙げられるのでしょうか。先ほどの特別講演もあわせて、ぜひ皆様のお手元のメモにお書き頂ければ有り難いです。

さて、これから、第2部パネルディスカッションに移らせて頂きますが、その前に10分間の休憩を取らせていただきます。

平和について、考える。

大きなテーマですが、いまの仲村様の話にもありましたように、人としての尊厳、生きる権利、それが守られるためにはどのようなことを考えていけばいいのか、というところから、ご一緒頂きたいと思います。

皆様のお手元のメモは、手を挙げていただければ担当の者が受け取りに参りますので、どうぞお渡しくださいませ。

では、しばらく休憩といたします。

ぴーすふるシンポジウム イン東京 全文掲載 3 (第1部続き 招待講演)

※本文書の無断転載は固く禁じます。